

2016年3月11日

AGC旭硝子がブラジル第2フロート工場を新設 - ガラス生産能力を2.4倍に増強 -

AGC旭硝子（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：島村琢哉）は、AGCガラス・ブラジル社（本社：ブラジル・サンパウロ州グアラティンゲタ市）に約180億円を投じてブラジル南東部に第2フロート工場を建設し、ガラスの生産能力を現在の2.4倍に増強することとしました。新工場は2018年末迄に完成させる予定です。

AGC旭硝子は、新興国市場での事業拡大を成長戦略の一つに掲げ、2011年にAGCガラス・ブラジル社を設立しました。2013年以降順次、建築用および自動車用ガラス素板、ミラーおよび建築用各種コーティング加工製品、自動車用合わせガラスおよび強化ガラスを出荷し、その品揃え、品質およびサービスが市場で認知され同社事業は着実に拡大しています。

ブラジルは約2億人の人口を抱え、若年層比率が高いことや、豊富な天然資源等を背景として、中長期的な観点では経済成長が続くものと予想されます。建築用・自動車用ガラスにおいても、需要成長が見込まれるため、現状年間22万トンの生産能力に新たに年間31万トンを加え、年間53万トンに増強します。

AGCグループは、今後も新興国において拡大する需要を着実に取り込み、経営方針 *AGC plus* のもと売上高の拡大を目指します。

【AGCガラス・ブラジル社の概要】

社長	ダビデ・カペリーノ
本社所在地	サンパウロ州 グアラティンゲタ市
出資比率	AGCグループ 100%
事業内容	建築用ガラス・自動車用ガラスの製造・販売
従業員数	525名（2015年12月末時点）

以上